

職場労使関係の構造と労働組合の機能に関する国際比較研究

「職場労使関係の構造と労働組合の機能に関する国際比較研究委員会」(*主査)

*佐藤 博樹 (東京大学 社会科学研究所教授) 久本 憲夫 (京都大学 経済学部教授)
小笠原浩一 (埼玉大学 経済学部教授)

日本の労使関係や労働組合のあり方については、イギリスやドイツと大きく異なるため、相互に学べるものはほとんどないとの意見も少なくない。しかしながら、今回の調査研究を通じて、

- ・イギリスでは団体交渉の分権化が進展し、企業内あるいは事業所内の労使関係の比重が高まっている。
- ・ドイツでは従業員代表会が、企業別組合と等価と言えるような機能を果たしている。

等の事実が明らかとなった。

こうしたことから、企業レベルや事業所レベルにおける日本の労働組合の経験を、海外に向けて発信し、また、海外の経験を学ぶことの意義は、決して小さくないと言えよう。

同時に、今回の調査を通じ、イギリスやドイツにおいても、作業組織の再編策として、

- ①配置を柔軟化するためのチーム制 (あるいはグループ労働) の導入
- ②柔軟な配置のための職務給の大括り化や職能給の導入
- ③技能育成のための技能表 (職場の労働者が保有している技能を職場の技能と対応させて表示したもの) の導入と職場掲示板への掲示

などが行われつつ、日本の経験への関心が強まっていることが感じられた。このことから、労使関係面だけでなく、日本における職場レベルにおける作業組織や技能形成に関する実態や課題について、海外に向けて正確な情報を発信することにも意義があるものと考えられる。

目次

はじめに

調査の目的および方法

第一章 総論

第二章 イギリス編 ～イギリスにおける職場労使関係の動向～

第三章 ドイツ編 ～ドイツの企業内労使関係～

第四章 既存調査再分析編 ～イギリス民間製造業における事業所レベルの労使関係の実態～